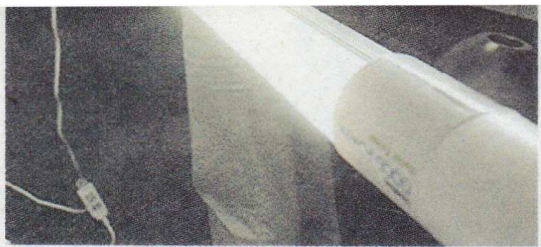


品の提供を可能にした。特殊な回路を採用し、水に漬かったり、誤って規格外の電圧がかかったりしてもショートしないなど、品質も高めた。

昨年六月に販売を始め、これまでに企業や官公庁、大学などに約五千本を出荷した。口コミなどで評判が広まり、最近は一日に百本ほど売れているという。

開発を担当した深井隆司・技術開発本部長は「安かろう悪かろうと思われるかもしれないが、実は安かろう良かろうです」と話している。



低価格が魅力のLED蛍光灯＝大垣市今宿で

りたて純米原酒玉柏」
を新発売する。
蓬田さんは歴史・時評会の吟醸酒の部で最優秀賞の知事賞を受けられ、二〇〇九年には腕前。
けた杜氏の宇野雅紀さん(四七)は昨年、新酒鑑うな日本酒を提供したといふ思い、企画したと話している。
原料米は県産の酒造好適米「飛騨鷹」で、すつきりした飲み口に仕上げた。アルコール度一七度。価格は一・八〇〇円(税別)が千四百円。問い合わせは蔵元やまだ(0574)430015へ。(安藤恭子)

加藤電気炉材製造 (土岐市)

31

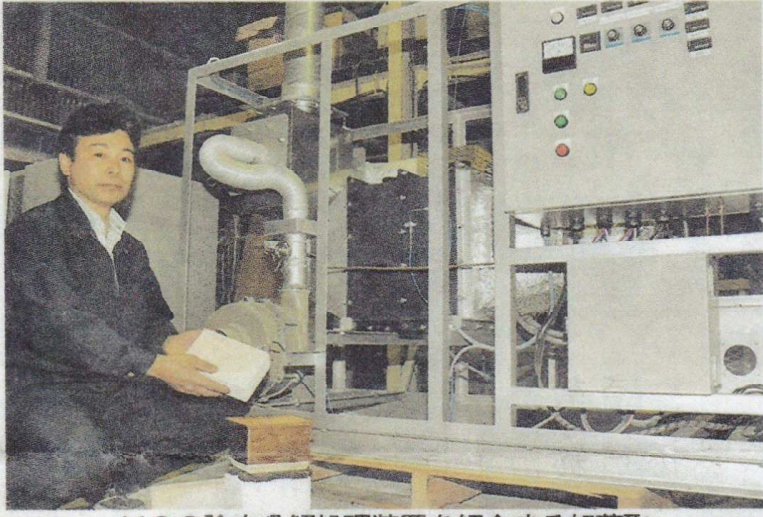
大気汚染の原因となるトルエンやキシレンなどの揮発性有機化合物(VOC)の除去分解処理装置を二〇〇九年一月、県や岐阜大などと共同開発。一〇年には装置のコンパクト化も成功させ、今年から中小企業向けに本格販売を始める。

ももとの主力製品は、窯業用電気炉などに使われる耐火レンガ。陶器の産地で、高品質なレンガを提供し続けてきた。
省エネが叫ばれ始めた一九七〇年代後半からは、加藤克吉取締役が「省エネはレンガの断熱性能を生かせる場」と、独自に技術研究を開始。自社レンガ

環境技術で事業拡大

の性能を引き出し、燃焼効率を高めた「クリーン焼却炉」などを次々と発表してきた。家族経営の小さな工場で生まれる最先端の環境機器。設備も人も最小限だ。「こんな所で造ってるんですかと、来る人みんなに驚かれます」。技術力を見込んで、共同開発の提案に訪れた研究者も、工場を見て、言葉も、工場を見て、言葉も失っていたという。「まあ、製品を見た後は、笑顔になってくれましたが」

工業製品の塗装や印刷の工程で発生するVOC。製造業の集まる東海地方が、全国排出量の四分の一を占めており、除去技術への期待が大きい。
業にとっても、切っても切れない存在になった」と加藤取締役。土岐の地から、環境技術の開発力で新たなビジネス拡大を狙う。(植木創太)



VOC除去分解処理装置を紹介する加藤取締役＝土岐市妻木町の加藤電気炉材製造で

会社概要 土岐市妻木町。1928(昭和3)年に開業し、88年に有限会社化。従業員4人。耐火レンガ製造のノウハウを基に、環境配慮型の工業製品の開発・販売を続ける。

岐阜のタウン情報を携帯で「中日新聞・中スポ」も見られます
iモード、Yahoo!ケータイ、EZウェブのニュースメニューからアクセス
QRコード

★日展親子鑑賞会
22、29日の前9・10、10、名古屋市東区の愛知県美術館ギャラリー。
第42回日展東海展(19日)2月13日中日新聞社共催)に合わせて開催。
日本画、洋画、彫刻、工芸美術、書の各部門の地元出品者によるギャラリートーク。対象は小・中学生とその保護者。参加料1組(4人まで)1000円。東海展図録の進呈も。各日先着2000人で、開催日の一週間前締め切り。詳しくはホームページ(「日展東海展」で検索)で。中日新聞社文化事業部「日展親子鑑賞会」係 電052(201)3766

裕也(恵那高1)近藤知美(中京高2)上田奈津希(中津商業高1)宮地慶樹(中京高1)足立知生(山梨学院大1)